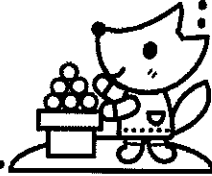




すぎのこつうしん

平成29年度9月号

古川東町カトリック保育園



★9がつうまれのおともだち★

おたんじょうびおめでとう

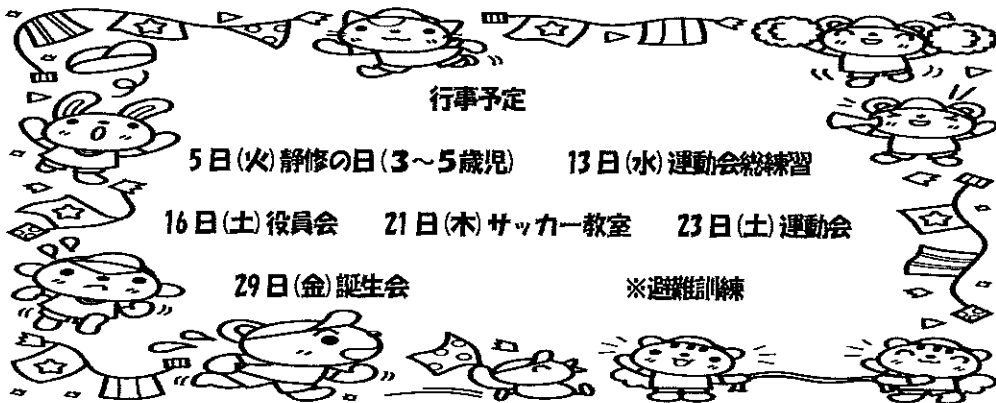


「お年寄りの方を大切にすることを育みましょう」

7月末から8月と31日間雨降りが続きました(TV情報ですが)。子ども達はなかなか外で遊べず、体力をもてあましていました。プールにも数えるくらいしか入れず、もう9月です。太陽が顔を出すと大喜びで園庭に飛び出し遊んでいます。日中は暑いのですが夕方は風が涼しくなりますので体調には十分気をつけたいですね。

9月末には運動会を予定しております。いよいよ運動会の練習が本格化してきます。今年は第三小学校の体育館が工事中のため借用できず、少し遠くなりますが富永小学校の体育館を借りることが出来ました。第三小よりは少し狭いので、御迷惑をおかけするかもしれませんが、皆さん分かち合いの心で席を譲りあい子ども達の応援をお願いしたいと思います。また、お越しの際には車を取り合わせて来ていただくよう御協力をお願いしたいと思います。運動会当日にはおじいちゃんおばあちゃんも来て下さる事と思います。有り難い事です。おじいちゃんおばあちゃんも仕事をしていて忙しいとは思いますが、孫と接する時は心に余裕を持って接する事が出来ているのだと思います。そのようにゆったりとした気持ちを持って見守ってもらえると子ども達は安心して遊び、自分は大事な存在なんだと思ひ自己肯定感が生まれるのだと思います。毎日毎日、時間に追われているお父さんお母さんに協力して子ども達が幸せになれるようにしたいですね。そしてまた、おじいちゃん、おばあちゃんを大切にしているお父さんお母さんを見ている子ども達はおじいちゃん、おばあちゃんのみならず誰をも大切に育ててくれることと信じています。

<園長 平野 義子>



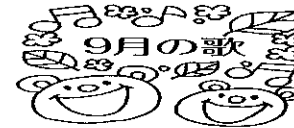
行事予定

5日(火) 静修の日(3~5歳児) 13日(水) 運動会総練習

16日(土) 役員会 21日(木) サッカー教室 23日(土) 運動会

29日(金) 誕生会

※避難訓練



♪アーメンハレルヤ♪

1. せかいのみんな きょうだいさ はなすことばが ちがっても しゅにおかうところは みんなおなじ こともだから
※アーメンハレルヤ アーメンハレルヤ アーメンハレルヤ アーメンハレルヤ
2. せかいのみんな ともだちさ はたらくほしよが ちがうけれど しゅにおかうところで ひとつになって わかつちから ※くりかえし
3. せかいのみんな りんじんさ たおれるものは たすけながら しゅにおかうところの あいはひとつ みんなのもの ※くりかえし

♪うんどうかい♪

1. まってまってた うんどうかい わーいわーい あかくみだ つなひきだって まけないぞ フレフレフレ フレフレフレ
2. まってまってた うんどうかい わーいわーい しろくみだ かけっこだって まけないぞ フレフレフレ フレフレフレ



おとうさん・おかあさんから

ひよこ組からお世話になりました。初めは毛布が無いと泣いてしまうので、毎日持って登園し、慣らし保育から始まりました。毛布が取れるかなと心配しましたが、あっという間に取れる事が出来ました。それからは泣いて保育園に行く事はほとんどなく、毎日楽しそうに登園してくれて嬉しかったです。いつもマイペースで自分らしく5年間過ごされたのは、先生方やお友達に恵まれた環境で生活出来たおかげです。ありがとうございました。残り少ない園生活を楽しく過ごしてほしいです。

(ひつじ組 ○○○ ○○○ちゃんのおかあさん)



あなたの一分間拝借！

9月のテーマは、『お年寄りを大切に作る心づくりに励みましょう！』です

大切にすることとは、互いに人格的存在であるという事を認め合い、尊敬し合い、労わり合うことだと思います。お年寄り、些細なことでも、例えば名前を呼ばれることにも、とても敏感で吃驚することがあるものです。呼び捨てにされたとか、「さん」づけで呼んでくれなかったことで一日中ひねくれて居る姿を見ると「老人は二度童(にどわらべ)」となるということを出し自省させられるものです。また、子ども時代の事を思い出します。祖母が朝ごはんの準備をしている時、祖父の大きな声が聞こえてきたのです。「オイッ！ オイッ！」祖母は返事をしません。二回、三回・・・ついに血相抱えて祖母に「爆弾」が炸裂する中、祖母は凛として返事をしたのです。「私はオイッではない、親から『おタツ』という名を頂いている」と。まさに『名は、体を表す』です。軍配は祖母の上にあります。

特別養護老人ホームでの思い出もあります。

施設で介護する人のことを寮母といいます。寮母さん達の慈愛に満ちた介護如何で施設の信用が評価されると言われるほど寮母さんの言葉、介護する時の言葉だけでなく、自由時間の時でも、家に帰ってからでも、或いは家族同士でも言ってはならない言葉があることに目覚めてほしいものです。どんな方でも人格を貶したり、傷つけるような言葉は慎まなければと痛感させられたものです。例えば、こんな会話を耳にしたことがあります。『ワッ臭い、良い香りのする「ウンチ」はないかしら！』『今取り替えたばかりなのに、また出たの！』…『いつまで食べているの 良くこぼすわね！』『わがまま言わないで食べて！』入浴時間中…『少しくらい熱くても我慢するのよ』、『いつまで入っているの、まだ濡れているから着てはだめ！』等々お年寄りは孤独や不安と日々闘っております。施設だけでなく家庭でも、また独居生活の方々にも、人格的配慮に満ちたケアを分かち合えるような人間性を育む9月の日々を過ごしましょう。特に最期の時にこそ、お年寄りを大切にすることが、私たちの思いやりと愛によって証明されます。死、それは自分の人生を汚れない清き供え物として、愛である神に捧げる厳粛な瞬間であるということが出来ます。それだけにふさわしい自分に変わることがすべての人々に求められています。

高齢化社会、核家族化等の今、聖書は両親との関わり方について次のように啓示しています。

旧約聖書シラ書3章 12-24

子よ、年若い父親の面倒を見よ、生きている間、彼を悲しませてはならない。たとえ、彼の物覚えが鈍くなっても思いやりの心、気持ちを持って、自分が活力にあふれているからと言って、彼を軽蔑してはならない。主は、父親に対するお前の心遣いを忘れない。

箴言書 23章 22 シラ所 3章 16

父に聞き従え、生みの親である父に。母が年老いても、侮ってはならない。父を見捨てる者は神を冒瀆(ぼうとく)する者、同じく父母を困らせる者は、主に呪われている者。



『神の賜物』と受け止めながら、成人するまで育成に励み、責任ある育児をしてこそ子供達から尊ばれる存在となります。自分の思いのままに育てたり、自分の夢を子供の将来に期待して子供の人生に水をさすようなことをしないようにしましょう。子供が成人して結婚しても、親は依然として親であることに変わりはないのですから人生の先輩として家族の絆を深め、学び合うことが肝要と心得ます。

「茄子の花と親の意見は、千に一つの無駄がない」という諺があります。

(茄子の花が必ず実を結ぶように、親の意見にも必ず得るところがある)

老いは誰にでもある。老いと正しい関わり方が、家族を豊かにし、あなたを永遠の命に導く！

カトリック古川教会

司祭 川井 啓

